

第5学年 国語科学習指導案 (オンライン授業)

令和3年11月3日(水) 11:20~12:05

授業者 中川 健

児童数 20名

1 単元名

「資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう ~フィリピンの未来予想図を書こう~」

2 単元の目標

- ◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。【知(2)イ】
- ◎引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。【思B(1)エ】
- ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。【思C(1)ウ】

3 単元の評価基準

知識・技能	情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。【知(2)イ】
思考・判断・表現	「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。【思B(1)エ】 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。【思C(1)ウ】
主体的に学習に取り組む態度	粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫をいかして、統計資料を用いた意見文を書こうとしている。

4 指導に当たって

(1) 教材観

本単元は、「読むこと」の説明的な文章教材「固有種が教えてくれること」と、書くこと「グラフや表を用いて書こう~フィリピンの未来予想図を書こう~」で構成される複合単元である。

指導の重点は、図表やグラフの扱い方にあり、特に気を付けたいグラフなどの読み取りについては、情報「統計資料の読み方」で取り上げる。図表と文章との対応を読み取ったり、それらの資料の効果を考えたりすることを通して、自分の表現にもいかすことも単元のねらいとなる。また、「フィリピンの未来予想図を書こう」の学習では、フィリピンの現状や今後を表しているいくつかの資料を提示し、それらの資料から、フィリピンの今後を考える学習をする。

日本や世界と比較しながら、フィリピンの今後を考えるというバイカルチュラルな視点をもって、本単元に取り組んでほしいと考えている。

(2) 児童観

計20名の本学年の中で、国際結婚家庭は、8人で、そのうちの6名は日本語学級に在籍している。なお、本学年には、日本語能力が著しく乏しい児童が1名在籍しているが、国語と算数の学習時間は、他学級の担任による取り出し指導をしている為、本單元にも参加はしていない。

オンライン授業は、意欲的に参加している児童が多い。しかし、国際結婚家庭の子どもの中には、授業に積極的に参加できていない児童が数名いる。オンライン授業であること、担任や授業者のサポートが十分にできていないこと、慣れない学習言語がたくさん出てくること等、様々な原因は考えられるが、少しでも在籍学級で活躍できるよう日本語学級の時間やサポートルーム（放課後に補習や質問をする時間）を活用してフォローしている。本單元では、「フィリピンの未来予想図を書こう」という活動を通じて、フィリピンの今後を予想する。自分たちの住んでいるフィリピンを改めて考える一つのきっかけになってくれたらよいと考えている。

日本語学級では、授業の先行学習や学習用語の定着を主に目指し、日本語学級で学習したことが在籍級で発揮できるような支援をしてきた。しかし、その支援がなかなか授業中の学習意欲には結びつかない児童がいる。今後も国際結婚家庭の児童が、在籍級で自信をもって積極的に学習に参加できるような方法を考えていきたい。

(3) 指導観

グラフや表を用いて自分の考えを裏づけながら、意見を述べる文章を書く学習である。「固有種が教えてくれること」では、資料を用いて自分の考えに説得力をもたせるという説明のしかたの工夫があることを学び、「グラフや表を用いて書こう～フィリピンの未来予想図を書こう～」では、これをいかして文章を書くこと（グーグルドキュメント）に取り組ませたい。

学習の展開としては、始めに、今、自分が生きている社会（フィリピン）に目を向けさせ、フィリピンの未来を考えさせる。次に、フィリピンの現在や今後を想像できるいくつかの資料を提示し、それが意味することについて解釈する。そして、考えと資料に整合性をもたせた上で、文章（ドキュメント）を書いていく。資料を引用するにあたっては、どのような資料を取り上げればよいか、どのような書き方をすればよいかについて考えさせ、方法を理解させるようにしたい。また、インターネットや本などで、提示したもの以外の資料を探してこることも、積極的に取り組ませたい。学習の最後に書いた文章を友達と読み合い、意見や感想を伝え合う。フィリピンの未来予想図に対して、友達がどのような見方をしているのか、どのような事実をもって考えを主張しようとしているのかを知ることで、未来についての多様な見方・考え方を広げたり深めたりすることも期待したい。

(4) 日本語支援について

日本語学級では、フィリピンの現在や今後の状況についての予備知識を得るため、先行学習を行った。先行学習では、授業内で扱う予定であるいくつかの資料を提示し、そこから分かったことや考えたことを話し合う活動を行った。本時の中では、資料をじっくり読み深める時間が少ないため、日本語学級の中で、資料をしっかり分析し、伝え合うような時間を設定するようにした。また、日本語の表現が授業の中でスムーズに活用できるよう、モデル文を活用しながら話し合う練習を行った。

<例>ア「(○) だから、(■) のようになると思います。」

<例>イ「(○) が、(■) のようになっているので、フィリピンは(△△) になることが予想されます。」

※日本語学級の予定

- 10月 8日 (金) 【社会】(資料の読み方)
- 10月15日 (金) 【国語】(統計資料の読み取り方)
- 10月22日 (金) 【国語】(本時で扱う資料の読み取り)

「学校教育における JSL カリキュラム」を活用し、どのタイプの日本語支援を行うのか明確にして支援をする。

支援	支援の視点	支援タイプ
直接	日本語や学習内容の理解を促す支援	理解支援
	表現内容の構成や日本語での表現を促す支援	表現支援
	語彙や表現の記憶を促す支援	記憶支援
間接	自分で学習する力を高める支援	自立支援
	学習への動機付けなど、情意的側面での支援	情意支援

(「学校教育における JSL カリキュラム II 日本語支援の考え方とその方法」より)

5 単元の指導・評価計画 (総時数 11 時間)

次	時	主な学習活動	指導上の留意点 (○教科・◎日本語支援)	◆評価 (手段)【観点】	日本語学級の 指導内容 【理】【表】【記】【自】【情】
第1次	①	①資料を活用した文章を読んだり、書いたりする活動の見通しをもち学習課題を立てる。また学習課題をもとにふりかえりの観点も提示する。	①単元の学習課題を意識させるため、図や表、グラフなどの資料にもふれて感想をまとめさせる。	【思C】文章と図表などの関係に注意して通読し、初発の感想をもっている。(記述) 【態】学習課題を捉え、学習計画を立てようとしている。(発言)	【情】本学級で単元に入る前に、日本語学級の中で、一度音読をする時間を設け、安心して学習に参加できるようにする。また、文章のはじめ・中・終わりを確かめることで、文章構成を理解できるようにする。
	② ③ ④ ⑤	②文章の構成を押さえて論の進め方を確認し、文章の内容の大体を捉える。 ③文章と資料を結び付けたたりその効果を考えたりして、論の進め方を捉え、要旨をまとめる。 ④筆者の考えなどについて自分の考えをまとめるとともに、資料を使った本を読む。 ⑤統計資料の読み方を理解し、自分が興味をもった資料や文章を読むときにいかす。	②さまざまな話題が扱われる文章なので、筆者の考えと結びつけながら、論の進め方を意識して読ませる。 ③「いらぬ資料がないか。」「資料がなかったらどうか。」等と問いかけ、本文全体の中での効果を考えさせる。 ④共感、納得したところ、疑問をもったところを手がかりにまとめていく。 ⑤資料の読み方に関する悩みを取り上げて、「統計資料の読み方」につなげる。	【知】情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使っている。(発言) 【思C】目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(発言)	【理】日本語学級で音読したり、意味の難しかった言葉を理解させるような時間を設ける。 【表】わかったことと、次の時間のめあてを書くという、ふりかえりの観点を意識するように声をかけたり、ふりかえりの観点が明記された振り返りシートを用意する。 【情】第3次では、フィリピンの未来予想図を書くという見直しをもって、学習に取り組むように声をかける

		⑥資料から読み取れることと、それをしていることの効果をもとめ、考えを伝え合う。	⑥資料の内容やその資料になぜ注目したかなどを質問したり、感想を述べ合ったりする。	【態】粘り強く、文章と図表などを結び付けて読んで、説明の工夫や筆者の考えを理解し、自分の考えをまとめている。(発言)	
第3次	⑦ ⑩	⑦これからのフィリピンの未来について自分の考えをもち、資料から分かる事実とそこから考えたことを書き出す。 (本時) ⑧資料から分かる事実とそこから考えたことを書き出し、文章構成を考える。 ⑨図表やグラフを用いて、考えが伝わるように書き表し方を工夫し、ドキュメントにまとめる。 ⑩ドキュメントに書いた内容を推敲し、文章を完成させる。	⑦提示する資料や調べ方などは適宜助言する。 ⑧まとめたものは、ペアで読み合い、考えと合った資料かを検討させる。また、教師から複数の資料を提示する。 ⑨考えを伝えるという目的を意識し、本文とグラフや表の結び付に注意させる。 ⑩ここまでに確認した書き表し方のポイントを参照し、文章を確認する観点を共有する。	【態】資料からわかったり考えたりしたことをもとに、フィリピンの未来を予想しようとしている。 【思B】引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(発言・記述) 【態】読み終わった説明の工夫をいかして、統計資料を用いた意見文を進んで書こうとしている。(発言)	【理】日本語学級で扱った資料であることを簡単に伝えること自信をもって授業に取り組むことができる。
第4次	⑪	⑪これまでに注意してきた観点を意識して読み合い、文章のよいところを見つける。	⑪ペアやグループの児童とは、読み合いを重ねてきているので、別の児童と交流できるとよい。	【思B】図表の使い方などの観点を、互いの文章のよいところを伝え合っている。(発言) 【態】単元全体の学習をふりかえろうとしている。(発言・記述)	

6 本時の学習（7 / 11）

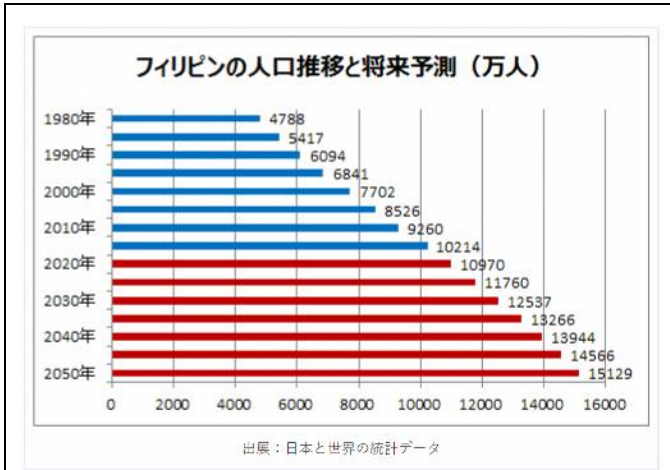
（1）本時の目標

資料からわかったり考えたりしたことをもとに、フィリピンの未来を予想しようとしている。

（2）本時の展開

過程	学習活動 ・ 児童の姿	指導と支援（○教科・◎日本語支援） 支援タイプ【理・表・記・自・情】 ◆評価（方法）【観点】
導入 10分	<p>1 本時の学習課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来予想図ってなんだろう ・どんなことを書くのかな。 <p>2 フィリピンの未来が今後どのようになっているかを一人一人が数直線上で表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来のフィリピンってどのようになるのだろうか。 ・資料がなければ、未来のフィリピンは想像することができないな。 	<p>○フィリピンの未来予想図をつくることを知り、フィリピンは今後どのようになっていくと思うか数名の児童に発表させる。</p> <p>自日本語学級の先行学習で学習したメモを用意させておき、そのメモを見ながら学習に参加させるようにする。</p> <p>○ジャムボード上に表した座標軸をもとに、フィリピンの未来がどのようになるかを児童に考えさせ、数名の児童に発表させる。</p> <p>○詳しい資料がなければ、未来予想図が立てられないことを知り、教師からいくつかの資料を提示することを伝える。</p>
展開 25分	<p>3 本時のめあてを確認する</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">資料を見て、フィリピンの未来予想図を考えよう</div> <p>4 6つの資料を紹介する。</p> <p>5 ブレイクアウトルームを活用して、資料から、事実とそこから考えられることを整理していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1つの資料から、たくさんのが分かってくるね。 ・フィリピンの未来予想図について考えることができたよ。 	<p>○一つ一つの資料が何を表している資料なのかを簡単に紹介し、日本語学級在籍の児童も、話合いに参加できるようにする。</p> <p>○個人で資料を読み深める時間を3分程度確保する。</p> <p>◎日本語学級の子ども達には、以前見せた資料であることを伝え、日本語学級での扱った学習活動と同じ資料であることを思い出させるようにする。</p> <p>理日本語学級で扱った資料であることを伝えることで、自信をもって課題に取り組むことができる。</p> <p>○例として、フィリピンの気候の資料を提示し、表やグラフから事実を読み取るだけでなく、その資料から未来予想図を考える視点を児童に与える。</p> <p>○ブレイクアウトルームで話し合いながら、資料から読み取れることをジャムボードに付箋をつかってまとめる。</p> <p>○6班（3人）で編成し、1班に対して1つの資料を提示し、そこから分かったことをジャムボードにまとめる。ただし、時間があったら、他の資料を見てわかったことをまとめてもよいことを伝える。</p> <p>○1つの観点からだけでなく、その資料からフィリピンの未来が予想されるように、様々な観点から資料を読み取るように声をかける。</p> <p>◎ジャムボードに書かれているペンの色を見て、日本</p>

	<p>6 話合いでわかったことを発表し、意見交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1つの資料から、色々なフィリピンの未来予想図を考えることができるね。 ・〇さんの意見は、参考になるね。 	<p>語学級在籍児童の考えが少なかった場合、少しでも自分の考えを言ったり書いたりできるように、個別に声をかけたりチャットを送ったりする。また、日本語学級でどうしても困っていた場合は、日本語学級で扱ったジャムボードのリンクをチャットで送り、事前学習を思い出すように支援する。</p> <p>◆資料からわかったり考えたりしたことをもとに、フィリピンの未来を予想しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの班で、話し合ったことの要点を捉えて発表する。 ○次の時間までに、他の資料（児童のジャムボードをPDFにして配付）にも目を通しておくことを伝え、次の時間の見通しをもつ。 ○自分でもフィリピンの未来が予想されるような資料を探してみるように児童に声をかける。
<p>終末10分</p>	<p>7 本時の振り返りをし、次の活動の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の時間は、フィリピンに関するグラフや表を読み取っていくんだね。 ・自分でもフィリピンの未来が予想できるような資料を探してみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ジャムボードに、本時で分かったことや次の時間のめあてなどを入力する。 表分かったことと、次の時間のめあてを書くという、ふりかえりの観点を意識させて、振り返りシートに記入させる。また、なかなか記入に時間がかかっている児童には個別に声をかけるようにする。 ○数名の児童にふりかえりを発表してもらおう。



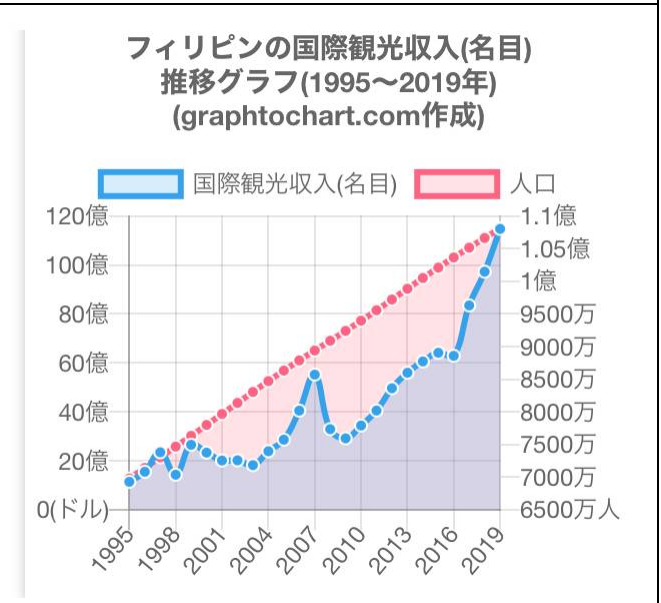
日本人の移住先ランキング

RANK	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
1	マレーシア	マレーシア	マレーシア	マレーシア	マレーシア	マレーシア	マレーシア	マレーシア
2	タイ	タイ	タイ	タイ	タイ	タイ	タイ	タイ
3	ハワイ	ハワイ	ハワイ	ハワイ	ハワイ	ハワイ	ハワイ	ハワイ
4	オーストラリア	オーストラリア	オーストラリア	台湾	台湾	フィリピン	フィリピン	フィリピン
5	ニュージーランド	カナダ	フィリピン	フィリピン	フィリピン	オーストラリア	オーストラリア	台湾
6	フィリピン	ニュージーランド	ニュージーランド	オーストラリア	オーストラリア	台湾	台湾	オーストラリア
7	シンガポール	シンガポール	カナダ	カナダ	アメリカ本土	カナダ	カナダ	インドネシア
8	アメリカ本土	アメリカ本土	シンガポール	シンガポール	シンガポール	インドネシア	インドネシア	ベトナム
9	カナダ	フィリピン	台湾	インドネシア	カナダ	シンガポール	シンガポール	シンガポール
10	インドネシア	インドネシア	インドネシア	ニュージーランド	ニュージーランド	アメリカ本土	アメリカ本土	カナダ

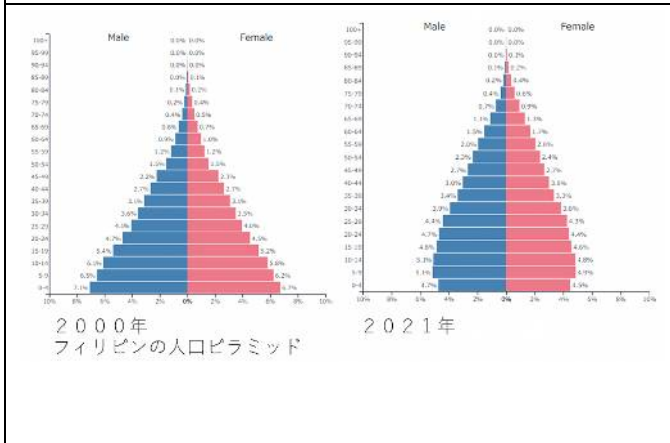
1 班に提示する資料



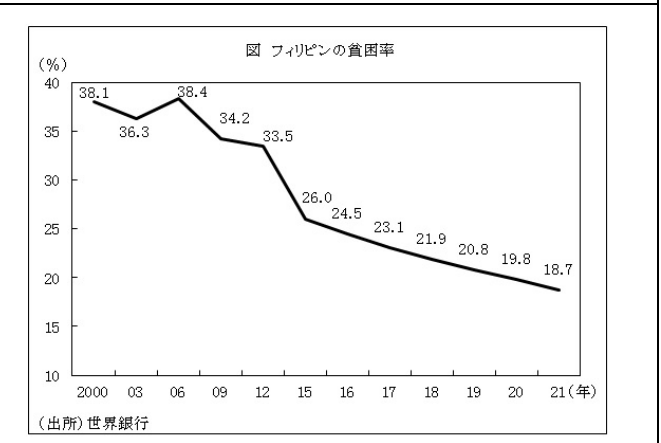
2 班に提示する資料



3 班に提示する資料

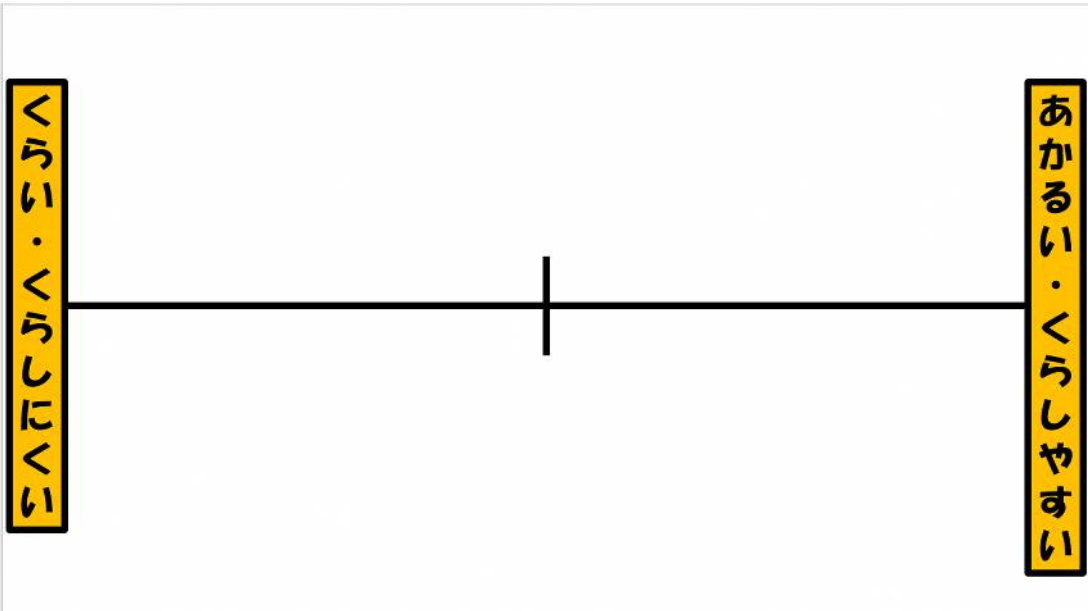


4 班に提示する資料

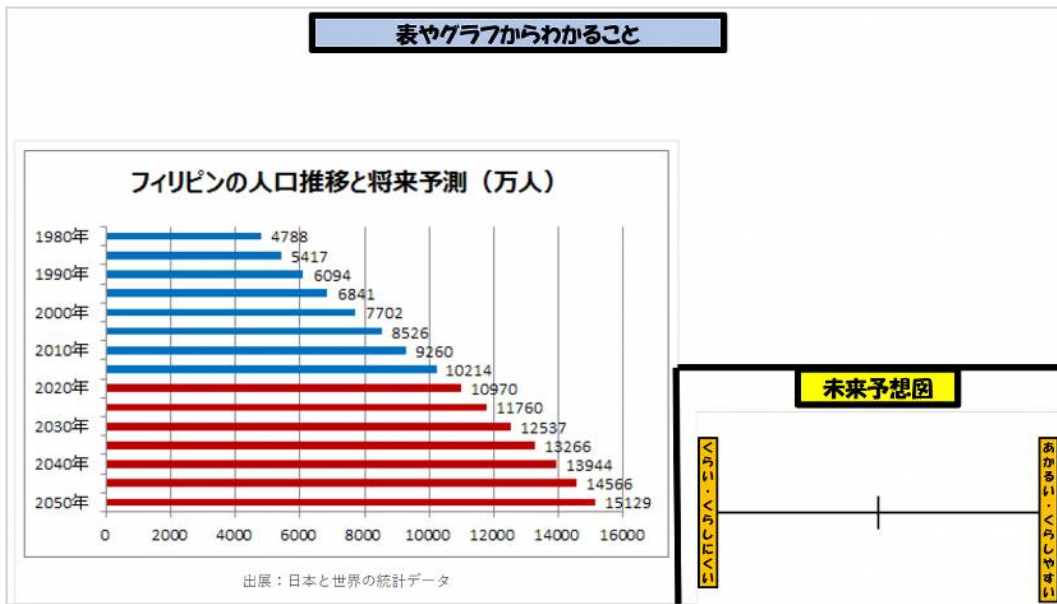


5 班に提示する資料

6 班に提示する資料



2の活動のジャムボード



5の活動のジャムボード

【1時間目】
学習計画を立てよう

わ→分かったこと
か→考えたこと
め→次のめあて

今日のめあて					
ほのか	かずき	いちろう	はゆき	なお	ゆうじ
たいが	ゆい	そら	けん	このか	りか
リオナ	あおい	ことは	たける	みゆう	ゆうと

7の活動のジャムボード

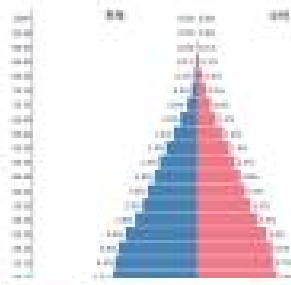
児童に提示した例文（グーグルドキュメント）

世界一の観光国(例文)

中川 健

ぼくは、未来のフィリピンは、世界中の人が旅行に訪れて、世界一の観光国になると思います。なぜなら、フィリピンには、とてもきれいで美しい海がたくさんあるからです。また、フィリピン人は、陽気でフレンドリーな人がたくさんいるからです。さらに、英語を話せる人が多く、世界中の人が訪れても、簡単に会話ができるからです。だから、今後、フィリピンには海外からたくさんの人が遊びに来て、世界有数の観光国になると思います。

左のグラフは、フィリピンの人口構成を表したものです。青色は男性、赤色は女性で、それぞれ人口全体に対して何人いるかをパーセントで表しています。縦軸は、年齢構成をあらわしています。これをみると、



一番多い人口が5才から9才。次に多いのが10才から14才ということがわかります。このことから、10年後、20年後のフィリピンは、20代や30代の人連が増えてくることがわかります。明るく陽気なフィリピン人の大人がたくさんいる国は、とても楽しく、世界中の人が観光旅行に行きたくなるのではないかと思います。



(出典) フィリピンは高い英語力を評価されました

さらに、左のグラフを見てください。左のグラフは、人口全体に対して、英語が話せる人の割合をパーセントで表したものです。資料からわかるように、フィリピンは、シンガポールとマレーシアに続いて、英語を話せる人が多く、人口の60パーセント以上の人と話せることがわかります。ぼくは、この資料から、英語が話せる人が多いので、今後たくさんの方がフィリピンに英語を勉強しに来るのではないかと思います。実際に、ぼくのメイドさんやドライバーさんも英語が上手です。ぼくも以前は、フィリピンのBGCで英会話を学んでいました。

たし、友達もたくさんなっていました。英語が話せる人が多いので、アジアだけでなく、ヨーロッパやアメリカの人もたくさん遊びに来るのではないかと思います。

このように、グラフや表をもとにして、フィリピンは人口が今後も増え続けることと、フィリピンの人連は英語を話すことが得意であることを述べました。このことから、フィリピンは、世界中の人が旅行に訪れて、世界一の観光国になると言えるでしょう。ぼくは、2年半フィリピンに住んでみて、フィリピンのことが大好きになったし、「大人になったら、もう一度フィリピンに遊びにきたいな」と思っています。きっと世界中の人がフィリピンを好きになってくれたら嬉しいです。

<参考>

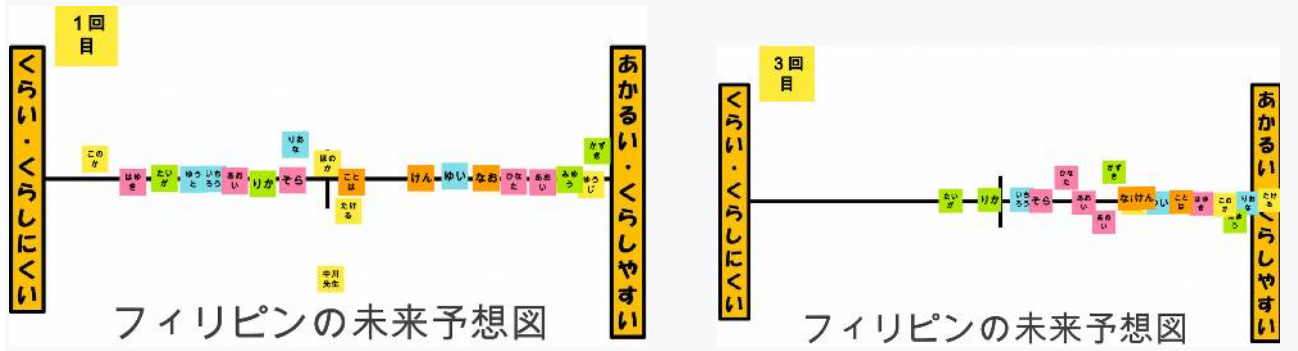
「フィリピンの人口」(ウェブサイト)

「フィリピンは高い英語力を評価からされました」(ウェブサイト)

9 考察

(1) 学習を終えて

フィリピンの今後にかかわる資料を提示し、「フィリピンの未来予想図」を書くという新しい単元を作成し、実践してみた。日本の資料でなくフィリピンの資料を扱うことで、日本やフィリピン、世界各国を比較して考えることのできるバイカルチュラルな視点をもった児童を育成できると思ったからだ。座標軸をつかって今後のフィリピンが「くらい？あかるい？」というアンケートを数回取った。始めは、フィリピンの将来を「くらい」と感じている児童が多かったが、後半になるにつれて、「あかるい」の方が増えていった。そのような子ども達の思考の変化はねらってはいなかったことだが、フィリピンの将来を明るく考える児童が増えたことは、とてもうれしいことであった。



(2) 手立てや発問の有効性

①成果

- 導入で、予想をジャムボードを使って視覚化することで、子ども達一人ひとりの考えを教師も子どもも把握することができた。
- 日本語学級で先行学習していたので、各資料から読み取ったことを話し合うグループワークに進んで参加できていた。
- 話し合いに使うジャムボードをそのまま発表資料にしたため、資料と意見との整合性を取りながら発表できる児童が多かった。
- 資料の読み取り方を「初級編・上級編」としたことで、児童がスモールステップで資料の分析の仕方を身に付けることができた。
- 資料から「増える」「減る」などの数値を読み取るだけでなく、資料を多角的・複合的に見て、フィリピンの「未来予想」を考えることができていた。

②課題

- 資料の読み取りから、未来を予想することが難しかった子どもがいた。資料の選択には、大きな課題が残った。
- 子どもに思考させる場面で、BGM を流してしまったことで、子ども達の集中力が少し途切れてしまった。
- チャットを使って、日本語学級で事前に学習した資料や話型を送ったりしたが、気づいていない子どもが多く、上手に支援することができなかった。
- 「書くこと」の学習ではあったが、最終的には、パソコンを使って、グーグルドキュメントにまとめる(タイピング)活動にした。書く学習でありながら、文字を実際に書いていないのは、良いのか悪いのか疑問が残る。
- 資料をもとに話し合う前に、どのように自分の考えを発表するのかというモデル文を提示したが、参考にする児童が少なく、かえって混乱させてしまった。
- 未履修の算数の知識を必要とするデータが2種類(③と⑤)あった。人口ピラミッドや%などは、5年生の算数では、扱っていなかったため、子ども達にとって、資料の読み取りが難しかった。